

## 平成 29 年度 研究計画書

### Research Plan FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座 教授
氏名 Name	岡田 新
専門分野 Academic Field	現代イギリス政治史

### 平成 29 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	1918 年総選挙と自由党の衰退—自由党の分裂と労働党				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>1918 年総選挙は、イギリスの政治史にとって大きな分水嶺となった。第一次大戦直後に行われたこの総選挙で、第一次大戦前は政権を握っていた自由党はロイド・ジョージ派とアスクイス派に分裂したまま選挙を闘い、結局二度と政権をとることはできなかった。一方、労働党は全国に候補者をたてて選挙を争い、議席の上でも一定の躍進を遂げ、野党第一党に躍り出た。自由党はこの選挙の後 1920 年代に、分裂を修復し、党勢を盛り返す局面もあり、労働党と自由党のせめぎあいが続いてゆく。しかし巨視的に見れば、1918 年総選挙が、自由党の衰退の活気となったことは否定できない。だが自由党が分裂し、従来の政党の対抗関係が崩壊し、連立派と非連立派に分かれて争われた 1918 年総選挙の分析は、政党の対抗関係が激変したために、決して容易ではない。事実、今までの筆者の分析においても、労働党は選挙区によっては、非連立派自由党の支持者と連携し、別の選挙区では、連立派の自由党の支持者と連携していたことが判明している。本年研究では、労働党の台頭と自由党の衰退のカギを握るとされる自由党の分裂と労働党との関係について、対照的ないくつかの選挙区の戦況を詳細に分析してゆく計画である。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	3 7 0 1 政治学	3 7 0 1 政治学	3 3 0 4 ヨーロッパ史	3 3 0 4 ヨーロッパ史	
キーワード Keywords*2	選挙	自由党	自由党	労働党	